

令和2年度 医療安全管理部 包括的公表

医療安全管理部医療安全管理室

海南病院では医療安全対策に関する事案の包括的公表を行っています。

1. 目的

: 患者の知る権利を保障し医療の透明性を確保するため、更に職員に医療安全の意識の向上と事故の再発防止に役立てることを目的とする。

2. 対象

: 報告の対象となるものは、患者の生死にかかわる極めて重大なものに限らず、院内で発生したすべてのインシデント・アクシデント、予期しない薬剤などによる重大な副作用や、広く社会に警笛を鳴らす意義が大きいと考えられる報告もその対象としている。

3. 医療安全報告件数（公表基準に基づき、令和2年度集計結果を公表）

1) 事象レベル

事象レベル	傷害の継続性	傷害の有無	傷害の程度
レベル 0.01	なし	なし	仮に実施されていた場合、患者への影響は小さかった（処置不要）と考えられる
レベル 0.02	なし	なし	仮に実施されていた場合、患者への影響は中程度（処置が必要）と考えられる
レベル 0.03	なし	なし	仮に実施されていた場合、身体への影響は大きい（生命に影響しうる）と考えられる
レベル 1	なし	なし	患者への実害はなかった（何らかの影響を与えた可能性は否定できない）
レベル 2	一過性	軽度	処置や治療は行わなかった（患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた）
レベル 3a	一過性	中等度	簡単な処置や治療を要した（消毒、湿布、皮膚の抱合、鎮静剤の投与など）
レベル 3b	一過性	高度	濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長）
レベル 4	永続的	高度	永続的な障害や後遺症が残った
レベル 5	死亡		死亡（原疾患の自然経過によるものを除く）

2) 令和2年度 医療安全報告件数

事象レベル	レベル 0.01～3b	レベル 4～5	計
報告件数(件)	4,123	2	4,125

3) 令和2年度 事象分類別報告件数

事象分類	年間件数(件)	構成比	前年件数(件)	増減(件)
薬剤関連	909	22.0%	929	△20
輸血	25	0.6%	23	2
治療・処置	175	4.2%	239	△64
医療機器・用具	119	2.9%	98	21
ドレーン・チューブ	962	23.3%	858	104
検査関連	356	8.6%	271	85
療養上関連	1,388	33.6%	1,345	43
物品搬送	1	0.0%	0	1
放射線管理	0	0.0%	0	0
診療情報管理	159	3.9%	153	6
患者・家族の説明	22	0.5%	20	2
施設・設備・その他	9	0.2%	2	7
合計	4,125	100.0%	3,938	187

4. まとめ

令和2年度は入院患者さんの高齢化に伴い、患者要因が大きく影響するドレーン・チューブ、療養上関連の事象が増加した。

事象レベル5は、患者さん一人で来院し、診察、検査を待っている間に、トイレの便座に座ったまま意識を失い、ERに搬送したものの蘇生に反応せず死亡された事案である。外来におけるトリアージ体制、検査待ちの対応、監視体制等の改善に向け、関係各所とM&Mカンファレンスを実施した。

事象レベル4は、病室に仰臥位で頭部より出血し倒れているのを発見。CTにて急性硬膜下血腫あり、意識レベル低下、瞳孔不同出現。MRI後にICU入室、緊急で頭蓋内血腫除去術となった事案である。院内の多職種で構成する転倒・転落防止対策チームにて、個々の患者さんに合わせた転倒予防の強化を実施した。

このほかに、当院の医療安全の質を一層高めていく観点から特に重要と考えられる1事案を報告する。発語困難、歩行障害で救急外来を受診し、医師の診察の結果、帰宅と判断したが、翌日再度救急搬送され、脳梗塞の診断で入院となった事案である。関係各所とカンファレンスを行い、ご家族からの「いつもと違う」との声に耳を傾けることの重要性、また複数の医師による診断や、多職種連携の必要性を再確認し、チームで安心・安全な医療に取り組んで行けるよう対策をとった。本事案については、患者さんに半身の高度麻痺、全失語など重度の後遺障害が残存したことを病院として重く受け止め、外部の専門家による検証を実施するとともに、ご家族との話し合いを継続している。

これからも、地域の皆様に信頼を得られるよう取り組んでいく。